

授業の具体的展開例

T では、次は、「上手な話し合い方」について、学級みんなで話し合って考えてみましょう。今、グループで話し合ったことをもとにして発言しましょう。まず、話し合いに参加するときには、どのようなことに気を付けたらいいでしょう。

C 今日の話し合いは、順番に発言する方法でしました。だから、司会の人に名前を呼ばれてから、発言するようにしました。

T 指名されてから話す、ということですね。意見のある人が手を挙げて発言する方法と比べて、どうでしたか。

C グループの人全員が発言できるからいいと思いました。

C 前の人の発言を落ち着いて聞くことができるのでいいと思いました。

T なるほど、そのためにも、指名されてから発言するという約束が大事なのですね。では、他に意見はありませんか。

C 発言するときには、なぜそう考えたのか、理由をいうことが大切です。

T それは、なぜですか。

C 教科書のとおりやってみて、気が付いたのですが、理由があると、聞いていて「なるほど」と思うからです。

T そうですね。では、理由を言うときには、どのような言い方をしましたか。

.....

児童の発言を受け止め、更に深めるような問いを返すことが重要である。

児童の発言を意味づけたり、ことばを補ったりすることで、話し合いに関することばやその使い方を高めるようにする。

「参加するとき」と「司会をするとき」の2つの柱で整理できるように、発言を方向付ける。

板書例

上手な話し合い方

＜ さんかほうきり ＞

- しめこむしてから話す。
- 自分の考えを先に言う。
- 理由を言う。
- 同じ、ちがいをほめる。

＜ 司会ほうきり ＞

- 話し合いの手順をたしかめる。
- ほめる。
- 意見を整理する。

すずめかた

山野さんのグループの話し合いをやってみる。

- ① やくわりをきめる。
- ② 話し方を考える。
- ③ 話し合いをしてみる。

上手な話し合い方を考える。

- ① グループで話し合う。
- ② みんなで話し合う。

「活用」の力を育てるポイント

児童が主体的に学習を進めるためには、自分たちで充実した話し合いを進められることが、極めて重要である。話し合いの進め方を知識として理解するだけでなく、実践の中で体験的に身に付けられるようにしていきたい。